



港区

みどりの街づくり賞

景観街づくり賞

区民景観セレクション

令和4(2022)年度 受賞施設等



目次

港区みどりの街づくり賞 受賞施設	01
<ul style="list-style-type: none"> クラス青山／ツクイ・ののあおやま／ののあおやまショップ&レストラン WATERS takeshiba (ウォーターズ竹芝) REVZO 虎ノ門 東京虎ノ門グローバルスクエア 了聞 	
審査会委員総評 (港区みどりの街づくり賞)	06
港区景観街づくり賞 受賞施設	07
<ul style="list-style-type: none"> 東京ポートシティ竹芝 虎ノ門ヒルズビジネスタワー THE CAMPUS 	
港区景観街づくり賞 奨励賞 受賞施設	10
<ul style="list-style-type: none"> SPRING TERRACE OMOTESANDO 末日聖徒イエス・キリスト教会 東京神殿別館 REVZO 虎ノ門 	
港区景観街づくり賞 特別賞 受賞団体	13
<ul style="list-style-type: none"> 港区アドプト・プログラム—道路・公園のボランティア活動 	
審査会委員総評 (港区景観街づくり賞)	14
港区区民景観セレクション 受賞景観	15
<ul style="list-style-type: none"> 静寂と緑に包まれる綱坂《グランプリ》 お台場海浜公園とスカイライン《グランプリ》 都心の芝桜 おばけトンネル (高輪橋架道橋) いろは通りの芝の家と芝のはらっぱ 東京ミッドタウンの桜並木 東禅寺に向かう道 芝浦のクロスロード (ペDESTリアンデッキから) 港区立伝統文化交流館 (旧協働会館) 五色橋周辺から見た運河とモノレール 	
審査会委員総評 (港区区民景観セレクション)	20

港区みどりの街づくり賞とは

港区では、昭和54年度から建築計画に伴う緑化計画書の提出を義務付け、緑化の指導を行ってきました。緑豊かな都市づくりには、公共の緑とともに、民間施設の緑化が重要な役割を果たしています。

「港区みどりの街づくり賞」は、優れた緑化計画を行い、その緑地を維持している区民や事業者の緑化施設を表彰し、地域緑化への協力を感謝を示すとともに、さらなる民間緑化の発展を願って、平成16年度に創設しました。

対 象	原則として、前々年度に完了した建築計画に伴う緑化施設で、港区みどりを守る条例施行規則の緑化基準を満たしているもの
審査・選定基準	学識経験者、都市緑化に造詣の深い区民及び環境リサイクル支援部長で組織する港区みどりの街づくり賞選定審査会が、以下の選定基準を基に決定します。 ①周辺の景観と調和し、優れたデザインであること／②維持管理が適切に行われていること／③自然環境の保護と再生に努めていること／④建築物と植栽地がバランスよく配置されていること／⑤既存樹木を活用していること／⑥あらゆる生きものが、相互に関わり合いながら生きられる生物多様性に配慮した植栽計画となっていること／⑦在来植物を取り入れていること／⑧地域社会とのつながりを持ち、地区への貢献度及びみどりの公開性が高いこと／⑨先進的又は総合的にレベルの高い緑化技術を取り入れ、新しい緑の創出に創意工夫がなされていること

港区景観街づくり賞とは

港区では、平成21年に港区景観条例を施行し、同年に港区景観計画を策定しました。これらの条例・計画に基づき、建築物の建築等の際に区との景観協議を義務付け、助言・指導を行っています。

「港区景観街づくり賞」は、良好な景観の形成に関して功績のあった民間の施設や活動を表彰することで、皆さんの景観に対する意識の向上を図るとともに魅力ある街づくりを推進するため、平成23年度に創設しました。

港区景観街づくり賞・港区景観街づくり賞奨励賞

対 象	区と景観協議を行った民間施設のうち、前々年度に完了報告書が提出されたもの
審査・選定基準	港区景観審議会委員、港区景観アドバイザー及び街づくり支援部長で組織する港区景観表彰選定審査会が、以下の選定基準を基に決定します。 ①周囲からの見え方に配慮があり、周辺の街並みと調和しているもの／②建築物、植栽等がバランスよく配置されており、憩いと安らぎを創出しているもの／③地域特性を生かしており、まちの魅力の向上に貢献しているもの／④地域社会とのつながりを持ち、区民等への貢献が高いもの／⑤都市景観の創造に先導的な役割を果たしているもの
そ の 他	特に優れていると認める施設を「港区景観街づくり賞」に、より一層の良好な景観形成を期待する施設を「港区景観街づくり賞奨励賞」に選定し、各受賞者に記念品を贈呈します。

港区景観街づくり賞特別賞

港区景観条例による届出対象以外の、良好な景観形成に功績のあった施設や活動に対し、感謝の意を込めて表彰します。

港区区民景観セレクションとは

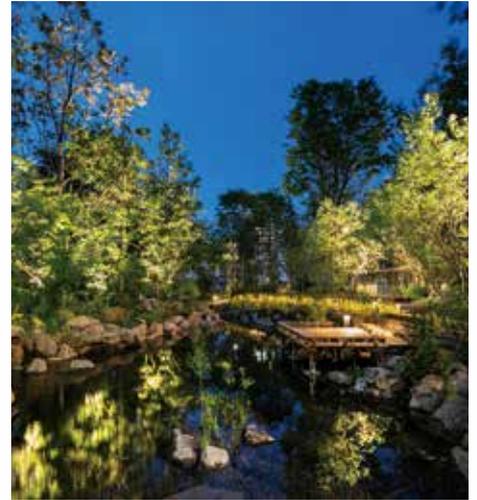
「港区区民景観セレクション」は、区民が誇り、愛着を持つ景観を募集・表彰することで、良好な景観の周知・共有を図るため、平成29年度に創設しました。

対 象	「区民が誇り、愛着を持つ街並みその他の景観」として区民等により応募されたもの
審査・選定基準	港区景観表彰選定審査会が、以下の選定基準を基に決定します。 ①地域性が感じられるもの／②波及性があるもの／③発見性があるもの
そ の 他	グランプリを選び、その応募者に記念品を贈呈します。

クラス青山／ツクイ・ののあおやま／ののあおやまショップ&レストラン

事業主：青山共創(東京建物、三井不動産、三井不動産レジデンシャル)
設計者：ランドスケープデザイン監修:ランドスケープ・プラス
樹種選定アドバイザー:東京農業大学客員教授 濱野周泰
デザイン監修:隈研吾建築都市設計事務所
設計:KAJIMA DESIGN/ランドスケープデザイン(外構実施設計協力)

施工者：鹿島建設株式会社東京建築支店
所在地：北青山三丁目4番3号
施設用途：共同住宅(賃貸)、サービス付高齢者向け住宅、店舗、認可保育所、地域交流施設
敷地面積：7895.01㎡
緑化面積：2149.41㎡
接道部緑化延長：84.65m
緑化面積率：27.22%
接道部緑化率：60.29%



選定にあたっての評価コメント

約0.4haの公開緑地を使って細かな計画の下に、このみどりのまちづくりの求める要件を満たしている作品と言ってよいだろう。さらに付言すれば全体としての清潔感と植物たちが発する生き生きとした活力であろう。植栽の面でいえば高木、中木、低木、湿生植物までのバランスの良さは自然地の風景の再現効果を発揮している。この場へ足を踏み入れると、人工的空間でありながら天然の自然地に身を置いている気分を覚えさせ大都市東京の一角であることを忘れさせてしまう。さらに付言するならば、この場所全体から感じさせる清潔感と植物の葉先まで行き届いた生命力である。また自然学習の場としての芝生スペースを設けたのも好感が持てる。100年後を見据えた自然回帰のまちづくりをコンセプトにしたようだが、現実問題として100を数える長寿社会の実現を期待したい。



WATERS takeshiba (ウォーターズ竹芝)

事業主：東日本旅客鉄道株式会社
設計者：株式会社JR東日本建築設計
外構設計協力：株式会社ランドスケープデザイン
施工者：清水建設株式会社
所在地：海岸一丁目10番30号他
施設用途：ホテル、事務所、店舗、劇場等
敷地面積：21032.09㎡
緑化面積：4330.44㎡
接道部緑化延長：282.17m
緑化面積率：20.59%
接道部緑化率：68.01%



選定にあたっての評価コメント

浜離宮の圧倒的な緑のマツスは、タブノキの群生によるものだが、将軍の庭「浜御殿」の時代には恐らく存在しない。しかしビル群に囲まれた現在では、むしろそれに対抗できる緑の塊として存在感を発揮している。その緑のマツス（庭園の構成と関係のない）を取り込むことで、いわば浜離宮の「裏」だった空間がこの施設によって、「表」に転換している。高層階からの浜離宮の眺め（庭園の構成に関わる）はさぞかし素晴らしいだろう。つまり浜離宮は「いい眺め」を提供している。しかし浜離宮からこの施設群はどう見えているのだろうか。「いい眺め」を浜離宮の訪問者に提供しているのか。「みどりの街づくり」を考える上で、公開性は常に問われるテーマだが、ニューカマーと地域の人々（在住者、在勤者）の間で「いいこと」の相互の交換が重要な条件だろう。施設内に「ひがた」再生の試みを見た。「ひがた」を通じての地元の交流にも今後期待したい。



REVZO虎ノ門

事業主：中央日本土地建物株式会社
設計者：川島範久建築設計事務所(建築)
中央日本土地建物株式会社(建築・設備)
平岩構造計画(構造)
施工者：株式会社 安藤・間
【植栽】株式会社グリーンスペースオオサカ/株式会社 花門フラワーゲート
所在地：西新橋一丁目8番1号
施設用途：事務所
敷地面積：497.73㎡
緑化面積：141.47㎡
接道部緑化延長：47.73m
緑化面積率：28.42%
接道部緑化率：52.99%



選定にあたっての評価コメント

高層化した都市で、人間を含めた生物に憩いを与える緑の在り方を問う本賞に対し、その新しいプロトタイプとなる本質貸オフィスビルを評価したい。特徴的なのは、なんといっても地上から11層連続した緑の都市的立面である。外堀通りは、道路幅とその近隣建物によって大きなスケールを持っているが、その中でもこの緑の存在感は圧倒的である。また、その背後に設けられたバルコニーによって、多種多様な樹種によって構成されたその緑は、見るだけでなく、触れ、香り、木陰をつくる、緑の体験空間となっている。さらに、この緑の維持を考慮して設けられたテラスと外部階段を活用したメンテナンス導線のアイデアは秀逸である。また、歩行者スケールに対しては、壁面ラインをセットバックし、その全面を多種多様な樹種で緑化することで、歩道と連続する森のような奥行きをつくり出している。今後、様々な場所で展開していくオフィスブランドとして、高層化した港区の立体緑化の種になることを期待したい。



東京虎ノ門グローバルスクエア

事業主：虎ノ門駅前地区再開発組合
設計者：株式会社 日本設計
株式会社 三菱地所設計
施工者：株式会社 竹中工務店
西松建設株式会社
所在地：虎ノ門一丁目3番1号
施設用途：複合施設
敷地面積：2782.44㎡
緑化面積：1459.82㎡
接道部緑化延長：129.74m
緑化面積率：52.47%
接道部緑化率：61.93%



選定にあたっての評価コメント

外堀通りと桜田通りの交差点の南東角の建物。平日は相当数のオフィスワーカーが往来する交差点になるため、動線の確保と見通しからシマトネリコだけの並木植栽になっている。外堀通り側は地下で地下鉄銀座線虎ノ門とつながるが、虎ノ門駅のホームが狭く敷地側にそのホームを拡張したため、地上部は一見簡単に緑化できそうな雰囲気があるが人工地盤状態のため排水に工夫が必要だったこと。面白いのが南側のポケットパークで、施設規模からすると決して広くはないが、オフィスエントランスから受付ロビー背後のガラス壁越しの眺めが「ポケットパーク+隣地建物の虎ノ門ファーストガーデン」になっていて、虎ノ門ファーストガーデンのメイン景観ではない側面の壁面緑化がうまく借景で生かされる構成になっている。日照が不足する部分の壁面緑化は、緑化面積確保だけぐらいいしか存在価値がなかったが、質の良い壁面緑化は借景になる時代になったと感心した。



了間

事業主：宗教法人 瑞華院
株式会社 了間

設計者：無有建築工房 竹原義二
株式会社ウィッシュワーク設計事務所
庭園：E-DESIGN 長濱伸貴 / fieldwork 小竹良恵

施工者：大和ハウス工業株式会社 東京本店 / 箱根植木株式会社

所在地：南麻布五丁目1番4号

施設用途：納骨堂

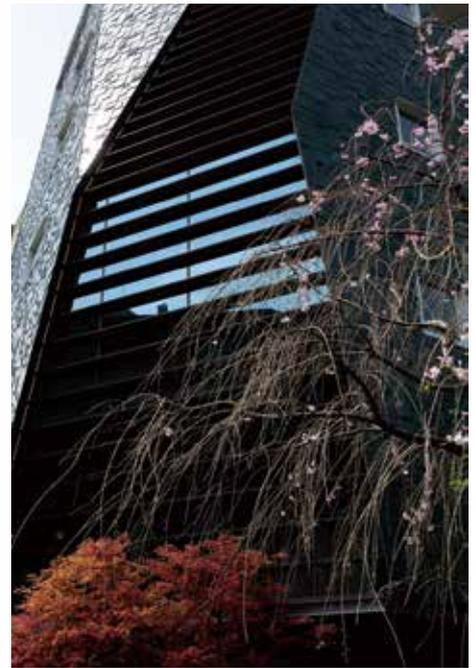
敷地面積：861.36㎡

緑化面積：82.60㎡

接道部緑化延長：28.06m

緑化面積率：9.59%

接道部緑化率：52.76%



選定にあたっての評価コメント

外苑西通りに接する瑞華院の納骨堂。建物だけに閉じることなく、周囲の歴史や環境をうまく取り入れた緑地と水施設が設置されている。エントランスホールの「湧水の庭」はこの場所の南東に位置する有栖川宮記念公園の池を做って水庭とし、歴史的な周囲の環境を取り入れたというだけでなく、貴重な鳥の水場の役目も果たし、また、その水の音が道路の喧騒をかき消すようになっている。そして、エントランスとは反対のサービスヤードとして重要視されない部分も「大門の庭」として周囲の景観に調和するように作られている。以前からあった北側の街角広場は、既存緑地のボリュームをコントロールするなど全面改修して「山桃の庭」として再整備され、本施設に訪れる人以外にも気持ちよく利用できるようになった。残念なのが歩道側から「湧水の庭」が見えないことで、分断している生垣を少しだけ開け、水と施設が垣間見えるとところがあればより良かった。



審査会委員総評

緑の相互貢献を目指そう

選定7件の中で、建築内容でいえば24階から26階の3件とその他2件は11階、7階の規模。前者においては敷地のもつ「もともと」とのつながりを目に見えるかたちで再生することが試みられている。「もともと」とはその土地のもつ地形・地質、歴史、自然を指す。その土地が本来もつ個性が、失われまたは薄れかけているものを取り戻そうという努力が認められる。後者の1件は植栽の方法の独自性だが、評価が分かれたものの将来の可能性が評価される結果となった。もう1件は、狭い敷地にもかかわらず、「もともと」に配慮している点と納骨堂という街中のプライベート空間をできるだけ外部に開こうとする設計意図は評価に値する。一般に、周囲の緑を生かすことはいいことだ。ただ他者の緑を利用するだけでいいのか。自分はどう貢献できているのかについて思いを致す視点が必要だろう。つなぎあい、お互いを生かすことができれば、「みどりの街づくり」は達成される。



赤坂 信
千葉大学 名誉教授



高橋 雅雄

公益社団法人
観音崎自然博物館 元理事長
技術士(都市計画)

清らかなみどりのまちづくり

都心では今、高層建築から超高層建築が増え、地上を歩く人々は、ビルの谷底にうごめいている感がある。この傾向は当然続くことだろう。そこでは樹木への太陽光も十分には届かず、都市緑化が叫ばれても、止むなく、緑は屋上や壁面、建物内の窓辺へとといった場所へ追いやられる仕末となる。都市生活者にとって真に必要な“緑”とはそんな緑でよいのだろうか。疑問が残る。都市であろうと農山村であろうと生活者にとって真に必要な緑とはどんな緑を指すのだろうか。言うまでもなくそれは、きらめく太陽、清らかに澄んだ水と大気に育まれた緑なのではないか。みどりのまちづくりはそのことを象徴する生活者の目標として捉えなければならない。港区に生れ育った者として、幼少の頃、関東ローム層からの湧き水に放したおたまじゃくし、夕刻もち竿で捕えたギンヤンマ、枝の上でかじったイチジクの風景がなつかしい。

多様化する都市自然の機能性

本年度の審査を通じて印象に残ったのは、視覚による景観形成を超えた、緑の機能の多様性である。開放された商業空間の緑は、樹種を混生させるだけでなく、自然材料でその設えをつくることで生物の居場所をつくる「多様性の森」として機能していた。それは手間を惜しまないメンテナンスを要求するが、それを逆手に取り、メンテナンスを楽しむことを目的とした新しい「コミュニティの形成」に寄与していた。また、建物が集合する都市において、個々の敷地で完結するのではなく、建築協定などの大きな枠組みによるものでもない、「隣地の借景」というシンプルな操作も興味深い。建蔽率を最大限消化する都市の中で「借景」が連坦することで、「奥行きある緑」を実現するアイデアである。さらに、視覚を超えた、触れ、香り、聴き、佇むための都市自然の在り方も、新鮮であった。五感を使い、連携し、新しいコミュニティをつくる都市自然の新しい可能性と今後の展開に大きく期待したい。



菅原 大輔
港区景観アドバイザー
SUGAWARADAISUKE
建築事務所 代表取締役



山崎 誠子

港区景観審議会委員
日本大学短期大学部
建築・生活デザイン学科 准教授
有限会社GAヤマザキ 取締役

外からの眺めよければすべてよし

自称「緑化やる気ある物件応援団長」の私としては、優秀作を毎年もっと出したいと思っているので建物用途・緑化手法がバラエティーに富んだ5作品を選定できたことにほっとしています。審査資料を読んだだけではどれも落とせないと感じたぐらい、説明図、文、写真とも出来が良かった。しかし実際現場で眺めると残念な使い方・見え方の空間を発見し、それらが選外となる理由になりました。ポイントは周囲を歩き交う人々への見せ方・使わせ方。民間施設の開発はその建物の所有者や利用者だけが享受できる緑地や外構施設を魅力的につくれば良いのではなく、利用頻度が高いエントランス・外周部を充実させることがもっとも重要です。屋上庭園や中庭は日常的に仕事や暮らしに直結しない限りはあまり行かないものです。日常行き交う周囲の人の目になり、街にとって、建物にとって、利用者にとって魅力的な空間を計画・施工していただきたいと思います。

東京ポートシティ竹芝



事業主：株式会社アルペログランデ
(東急不動産株式会社と鹿島建設株式会社による共同設立)
設計者：(業務棟)鹿島・久米設計工事監理業務共同企業体
(住宅棟)株式会社長谷工コーポレーション
施工者：(業務棟)鹿島建設株式会社
(住宅棟)長谷工・鹿島共同企業体
所在地：海岸一丁目7番1号、13番15号
施設用途：事務所、展示場、集会場、店舗、住宅、他
敷地面積：(業務棟)約12,156㎡
(住宅棟)約3,434㎡
高さ：(業務棟)約208m
(住宅棟)約60m
景観協議の対象行為：建築物の新築



審査委員コメント

- ①一番印象的なのは、海側1～6階までの開放的なスキップテラス。中高木や低木による立体的かつ連続的な植栽帯に加え、水田・蜂・菜園・水など多様な驚きを提供している。各所にはソファも配置されており、駅や竹芝側につながる高架歩行者通路ともあいまって、人々が、海風を感じながら、回遊し探索し学び安らぐことができる。40階建ビルのガラス面や水面には、周辺の高層建築も反射し、海・風・緑・水・高さ・地域景観を活かした、先進的かつ象徴的な役割を果たしている。
- ②本計画の優れたところは多様な活動を生み出す、連続したテラスのランドスケープである。低層部の各層がセットバックしながら空へと向かう立体的な緑と多様な段々のテラスは都市空間に活気ある景観を創出し、人々に海への眺望と活動の楽しみを与えている。そこでは生物多様性を考慮した樹木や植物、水田や香菜園のほか、多様な景観と人々が参加活動できるプログラムも用意され、地域の新たな交流拠点、都市の新回遊庭園として心地良い空間になるであろう。



虎ノ門ヒルズビジネスタワー



事業主：虎ノ門一丁目地区市街地再開発組合
管理 者：虎ノ門ヒルズビジネスタワー管理組合
設計 者：森ビル株式会社一級建築士事務所
施工 者：株式会社大林組、三機工業株式会社、
斎久工業株式会社、株式会社きんでん
所在地：虎ノ門一丁目17番1号
施設用途：事務所、店舗、共同住宅、駐車場
敷地面積：10,064.40㎡
高さ：184.925m
景観協議の対象行為：建築物の新築



審査委員コメント

- ① 新しさに古典的建築手法が投影されたようで面白い。重層的な庇は奈良県多武峰の談山神社を、低層部の大庇は雪国の雁木を思わせる。雁木下では暗い店内もよく見えるものだが、その効果を踏まえたかのように大庇下で商業用途の外壁をガラスとし、あるいはその壁面位置を前後させて建物内外の人々の視線の交錯を多彩に仕掛けている。その大庇は、一体設計された区立公園に接すると植栽デッキとなり、緑に嵌り込むような連絡階段と相まって緑化空間を独創的にまとめている。
- ② 5街区をまとめた大規模計画で、虎ノ門もすっかり変わっただろうと思いついてきたが、老舗呉服店や教会、公園等の配置も考えられていて心なだ。オフィスとしてではなく移動中に利用する人々への配慮を含め、圧迫感の軽減などを工夫した形状や広さ、植栽への取組みが見られた。案内サインもシンプルにデザインされ総合的な計画の良さが出ている。公共空間との境界でトイレとエレベータの案内があったのが印象的であった。サイン表示は様々な人に快適に利用してもらうため、欠かせない要素の一つであり、見習いたい事例である。



THE CAMPUS



事業主：コクヨ株式会社
 設計者：(全体統括／基本設計)コクヨ株式会社
 (実施設計)株式会社竹中工務店
 (ランドスケープディレクション)有限会社フルヤプランツ
 施工者：(建築)株式会社竹中工務店
 (植栽)生駒植木株式会社
 所在地：港南一丁目8番35号
 施設用途：(既存南館)事務所 (既存北館)ショールーム
 敷地面積：5,223.25㎡
 高さ：(既存南館)47.2m (既存北館)30.6m
 (新設ブリッジ)6.98m
 景観協議の対象行為：建築物の新築(一部)、改築、外観の変更(模様替)



撮影:鈴木文人



撮影:鈴木文人



撮影:ナカサ&パートナーズ



撮影:ナカサ&パートナーズ



撮影:ナカサ&パートナーズ

審査委員コメント

- ① 既存の建物を活かしながら敷地の中央には地域に開かれたパークがある。その横には人々を呼び込むように大階段が緑の連続空間の中に両手を広げるように待っている。なんと楽しそうなこの建物は、まさにワーク&ライフの解放区の風景を創出している。駅近の緊張感ある業務街区の中で、人々は自由に語り、大きな緑の中でのんびり過ごせる。都市空間の中の「人の居場所」、新たな賑わいの空間である。街角のカラフルなサインやアートも心躍らせる魅力の仕掛けである。
- ② ビジネス向け開発が進みながらも上質で人間味ある居場所がなかった品川駅港南口に、まち行く人々に嬉しい、誰もが一休みしながらわくわくするエリアが出現！既存建物に増築された階段やブリッジのデザイン、配置、素材と色調が効いている。多国籍ごちゃまぜの植栽も今風で、ポップなピンク基調のサインや色彩豊かなアート作品とともにこの空間によく似合う。昨冬のピンクイルミネーションの夜景も魅力的でこのまちを変えていく予感いっぱい。



SPRING TERRACE OMOTESANDO

事業主：合同会社M&H development
所有者：合同会社スプリング・テラス
設計者：有限会社マル・アーキテクチャ
施工者：神興建設株式会社
所在地：北青山三丁目10番3号
施設用途：店舗、事務所、飲食店
敷地面積：775.10㎡
高さ：18.975m
景観協議の対象行為：建築物の新築



審査委員コメント

- ①一番印象的なのは、曲面を描く大階段と、アイコンの大木、多様な植栽、階段状のテラス。地上面のオープンスペースは、レンガが敷き詰められ、柔らかいテーマカラーによる統一感とあいまって、洗練かつ心休まる空間となっている。低層建築が多くおしゃれで賑わいのあるこの地域への深い理解から生まれる、地域特性を活かした、丘のような全体フォルムと、地上面のデザインにより、主張しすぎず埋もれない、ランドマーク的な景観をつくりあげたのは、秀逸。
- ②表参道駅近くの青山通りから横道に入って出会える建物。道路幅に適した高さ、前面の引きで生まれたテラス、そこにある2階へのゆったりとした曲線階段、そして屋上と各階から飛び出したプランターから溢れる軽めの色の植栽。新築ではなく以前からここにあった印象。手すりやガラスファサードの枠と雨樋をレンガで仕上げ、全体をナチュラルな色調にまとめる。この建物があることがまちと人にやさしく、この地に馴染んだ景観を生んだ好例。



末日聖徒イエス・キリスト教会 東京神殿別館

事業主：末日聖徒イエス・キリスト教会
設計者：株式会社久米設計
(外構設計協力)株式会社ディー・エム
(デザイン監修)The Richardson Design Partnership、LOCI
施工者：株式会社竹中工務店
所在地：南麻布五丁目8番10号
施設用途：教会
敷地面積：2,988.45㎡
高さ：15.03m
景観協議の対象行為：建築物の新築



審査委員コメント

- ① 有栖川記念公園協の教会である。これまで駐車場だった部分を改装し、公使公邸などもあるような落ち着いた街区を、より気持ちよい空間にしてくれた。教会ながら、前庭を公園との調和を考慮した和風デザインにして、日本の常緑樹や石材の活用などに取り組み、これからの樹木の成長が期待される。別館の外壁の仕上げ・色彩も周辺との調和をテーマに選定したようで、穏やかな色調と質感が、ゆっくり散歩できるみちの形成にも役立っている。
- ② 隣接の既存神殿と合わせながらも控えめな正面デザインが好印象。全体をぐるりと囲んだ道路とは塀やフェンスを設けずに外構植栽で区切り、一見シンプルながらも細やかに仕上げられた外壁が、今後長きにわたってこの建物がこの地に馴染んでいくことを予感させる。アプローチの引きやそこに設けられた石灯籠、石積み小池と和風の植栽が、正面道路の向こうの公園の豊かな緑と呼応して、信者だけでなくまち全体に愛されていると感じる。



REVZO 虎ノ門

事業主：中央日本土地建物株式会社
設計者：(建築)川島範久建築設計事務所
(建築・設備)中央日本土地建物株式会社
(構造)平岩構造計画
施工者：株式会社安藤・間
所在地：西新橋一丁目8番1号
施設用途：事務所
敷地面積：497.73㎡
高さ：44.68m
景観協議の対象行為：建築物の新築



審査委員コメント

- ① 建物と緑の相補的アレンジがユニークだ。通りに面した壁面の半分を後退させて共有スペースとし、その外側に網をかけ中に植栽を取り込んだ。窓際にプランターを置くのとも、壁掛的な壁面緑化とも違う。緑が建物に「生け捕られ」たようでもあり、緑が網を絡めて少しずつ建物を「生け捕って」いく仕掛けのようでもある。エントランス・フロアはオープンだとはいえ、外縁の植栽に覆われて入りづらい。もう少し内部を見せてインドア・ポケットパークとならんことを期待したい。
- ② オフィス空間に自然との繋がりを創ることをこの建物の個性としてうまく表現している。働く人も身近に緑を感じ、街からも緑はよく見え、立体的に重なりあって見える緑化のバルコニーは庭景色となり心地良い景観である。エントランスの周りは多種多様な植物で囲われ、ホールは自然の映像や自然に関わりのある文化映像が流れ、建物の内外で連動して四季変化の自然を感じさせる仕掛けは、爽やかな空間である。これからも植栽管理に努め良い環境を維持願いたい。



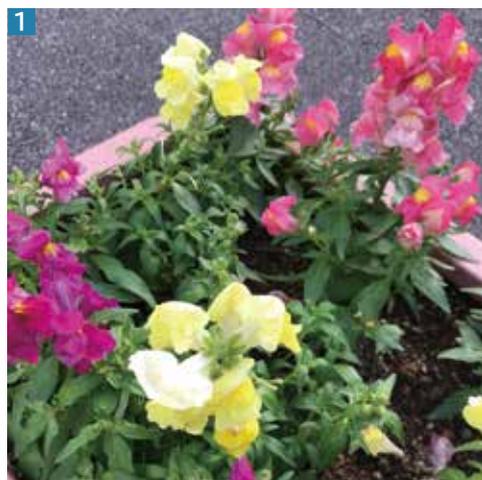
港区アドプト・プログラム—道路・公園のボランティア活動

港区アドプト・プログラムとは

港区アドプト・プログラムは、地域の方々が道路・公園の維持管理（清掃や花壇管理等）を自主的に行う活動のことです。区民等が相互に協力し、地域の共有財産である道路・公園等の緑化活動や清掃等を行うことにより、道路・公園等への愛着心を深め、利用者のマナー向上と清潔で快適な街づくりの推進を目的として、平成14年度から実施しています。

今年度の受賞団体

今年度の受賞団体は、港区アドプト・プログラムで活動継続5年を経過した団体です。地域の皆さんが主体となった清掃・修景を行うことで、身近な景観街づくりに大きく貢献していただいています。区から感謝の意を込めて、特別賞として表彰します。



令和4年度景観街づくり賞特別賞 アドプト登録団体 活動継続5年を経過（令和3年度末時点）した団体一覧

	実施団体	場所・種別	活動内容	地区
1	ご近所ラボ新橋ミナトストリートガーデン部	道路	清掃・花壇管理	芝
2	港区シルバー人材センター 白金台地域班	児童遊園	花壇管理	高輪
3	明日に咲く花♪	運河沿緑地	花壇管理	芝浦港南

アドプト・プログラム問合せ アドプト・プログラムについて 各地区総合支所まちづくり課土木担当

各 地区 **芝 地 区** 03-3578-2032 **麻 布 地 区** 03-5114-8803 **赤 坂 地 区** 03-5413-7015
 電話番号 **高 輪 地 区** 03-5421-7664 **芝 浦 港 南 地 区** 03-6400-0032

審査会委員総評

新しい時代の新しい都市景観を予兆

コロナ禍でレンタルオフィス建設の流れが加速したようである。顧客サービスに特化すればオフィス内環境の整備に力が入り、外観は従来通りクールなカーテンウォールということになりそうなものだが、この度の審査対象作品には、街並み形成にも一石投じようという前向きな仕事が見られ新しい時代を感じさせた。ことオフィスに限らず、規模の大小に応じた創意工夫があり、空間の新しい解釈があって目を楽しませてくれたが、総じて、壁によって内側に閉じない仕事、街ゆく人々を引き込む仕事に審査会委員の関心が集まったようである。建物内外を行き来する自由の中に景観的発見が仕組まれる。使い手のマネーも問われるが、都市がさらに魅力的になる予兆を見た。

齋藤 潮

港区景観審議会 会長
東京工業大学
環境・社会理工学院 教授



杉山 朗子

港区景観審議会 副会長
株式会社日本カラー
デザイン研究所
研究フェロー

改めて、多様な魅力を創り出している街に教えられた

コロナで外出を控えていた約2年間で、さらに変身していた港区に驚かされた。緑の空間の重視や、ビル利用者だけでなく地元の人々のくつろぎの場や子供たちの学びの場の提案など、今求められているテーマへの回答に出会えるのが、港区の特徴となってきたといえそうである。今回の受賞もお洒落な街やビジネスの中心街、坂の地形や歴史を生かしてなどバリエーション豊かで、それぞれ評価ポイントが異なっていて、興味深かった。建築や土木・ランドスケープといったデザイン面、サインデザイン、コミュニティとの関わり方の仕組みづくりなど、参考になる事例が多いように感じた。まずは来ていただいて、様々な視点をもって見て・楽しんでいただくことをお勧めしたい。そして感想をお聞きし今後活かせるとしたら、さらにいいだろう。

意欲的かつ先進的な候補が目白押しの、魅力度いっぱいの港区

選考候補には、大規模施設から中規模、新築から改装、また用途も多様で、あらためて港区の建築レベルと意識の、高さと感じました。それぞれの候補が、制約の中、最大限想像力を活かして、印象的な景観を実現していることに感動しました。コロナ禍でリモートワークも定着するなか、港区民も、自分の住む地域をあらためて探索し回遊し発見し学び安らぐ時間も増えました。今回の候補は、日ごろ在住者・在勤者で話題になっている施設も複数あり、さすが景観づくりが素晴らしい施設は、人々から本当に愛され評価されているのだなと感じました。今後も「景観や地域への貢献が、自らの好感度と知名度を最大化していく」ことを認識されている施設が増えていき、ますます港区が魅力的になっていくのでは、とワクワクしています。

栗山 由美

港区景観審議会
区民委員



大橋 尚美

港区景観アドバイザー
株式会社戸田芳樹風景計画
顧問

地域環境を向上させる心地良いオープンスペースの創出を

今年も賞の候補は港区ならではの多様な作品群である。どの作品も個性豊かで、この街だからこそその建築、環境、景観づくりがなされている。審査評価として、その作品が街並み、地域環境の向上にいかにか寄与しているか、まちの賑わいや活性化に寄与しているかを見てきた。特に受賞作品では建物を利用する人の快適性だけでなく、地域の人々がその建物やオープンスペースに安らぎや潤い、居心地の良さを感じられるなど、魅力的な空間整備、多様な植栽など滞在環境の向上が行われている。その具現化、展開には人と自然の交歓の空間創出の意識が見て取れる。積極的に地域の人を呼び込み、一緒に街の賑わいの景が生まれるように考えられている空間は、これからも多様な人に愛される空間になるであろう。

緑と建築によって街並み景観を含めた社会が豊かになる気配

建築に似合った適切な緑が増えてきたなあ、と候補案件全てを巡りながら感じました。樹木と草本類ともに季節の変化を見込み、この環境に生育することに適しているか、野鳥や虫たちがやってきて次代を繋ぐかと、将来を考えて選ばれ植ええられるようになってきているようです。同時に建物そのものが、まちや人に優しく豊かな空間を提供する役目を担っていることを意識して作られるようになってきたとも感じます。建築には所有者がいますが社会的財産です。建築をつくることで街並み景観を含めた社会そのものが豊かになることは、目先の経済と効率だけを優先しては成し遂げられない課題であり、ようやく良い方向への変化が見えてきたと感じた今回の選考でした。

藤野 珠枝

港区景観アドバイザー
藤野アトリエ一級建築士
事務所 主宰



静寂と緑に包まれる綱坂

テーマ：お気に入りの通り、おすすめの街かどの景観



選定にあたっての評価コメント

勾配に沿って礎石の段数を変えながら続くタイル塀の向こうは綱町三井倶楽部。変わらぬよう大木の樹冠と塀の手入れはゆき届き、歩いていて心地よい。一方通行上り坂の車道とほぼ同じ幅のゆったりとした歩道。歩道側には年季を感じる大谷石積擁壁やイタリア大使館等が風格を醸し出す。誰もが港区らしい歴史と品格を感じる坂道。

その他の評価コメント

- ▶坂道と両壁面から歴史を感じる。
- ▶かつてのお屋敷町の風情をとどめている。
- ▶坂と石垣、緑が美しい。

応募者からの推薦コメント

歴史と伝説を感じさせられる趣のある坂道です。

応募者：沖山 恵太郎（区内在住）

数多くの伝統的な坂の多い港区の中でも静寂と緑に包まれた綱坂は品格・環境に満ちている。坂の傾斜は歩くに程よく、リフレッシュに持ってこいの坂になるでしょう。

応募者：石綿 修一（区内在住）

港区区民景観セレクション

都心の芝桜

テーマ：お気に入りの通り、おすすめの街かどの景観



選定にあたっての評価コメント

都心部で、このダイナミックな芝桜の景観は他にはないであろう。業務ビルの春のピンク色のこの景観は他のオープンスペースにも波及する景観効果がある。ビルの裏手にありながら第一京浜道路からも望めるような構図で、今後も区民が感動する春の名所となるであろう。

その他の評価コメント

- ▶大面積の芝桜が作る鮮やかな春の風景
- ▶芝桜の新たな景観として視点が良い。

応募者からの推薦コメント

港区にあるきれいな芝桜

応募者：依田 修一（区内在住）

ビルの裏手側に存在する芝桜。仕事の疲れを吹き飛ばします。ここ近辺の会社員の方々にとっての隠れスポットです。

応募者：志鎌 光紗（区内在勤）

芝桜を見てランチする人たち

応募者：清水 亘（区内在住）



お台場海浜公園とスカイライン

テーマ：水辺の景観



選定にあたっての評価コメント

この景観への応募は3件。いずれも、“おだいばビーチ”一帯を視点とし、そこからの夕景写真が添えられていた。人工海浜ながらこのエリアは周囲の作り込みに嫌味がない。レインボーブリッジや港南地域のスカイライン、コンテナクレーンなどを遠景にした印象深いウォーターフロントだ。景観は夕景に限らず素晴らしい。

その他の評価コメント

- ▶ 台場砲台跡、レインボーブリッジ、人工の海浜公園の景観は外すことができない。
- ▶ 貝拾いなど自然に親しむこともできる。

応募者からの推薦コメント

休日のお台場海浜公園の夕景。砂浜でくつろぐ人々、歓声をあげて追いかけっこをする男の子たち。海の向こうには東京の街並みが夕陽に浮かぶ。慌ただしい毎日からしばし離れ、砂浜には緩やかな時間が流れている。

応募者：菊地 裕 (区内在住)

お台場海浜公園にて大空一帯に夕焼けのすばらしい景色が輝く、ある日の夕方。

応募者：早川 K

夕方が訪れたお台場海浜公園の何気ない日常

応募者：中野 淳司 (区内在住)

港区区民景観セレクション

おばけトンネル(高輪橋架道橋)

テーマ：お気に入りの通り、おすすめの街かどの景観



選定にあたっての評価コメント

鉄道の開発とともに、旧来からのまちと海岸側を繋ぎ、新しい地区の発展を支えてきた。時代ごとの交通手段の変遷を実感できる港区のなかで、役目を終わらせ姿を消すこととなったが記録だけでも伝えていきたい姿である。

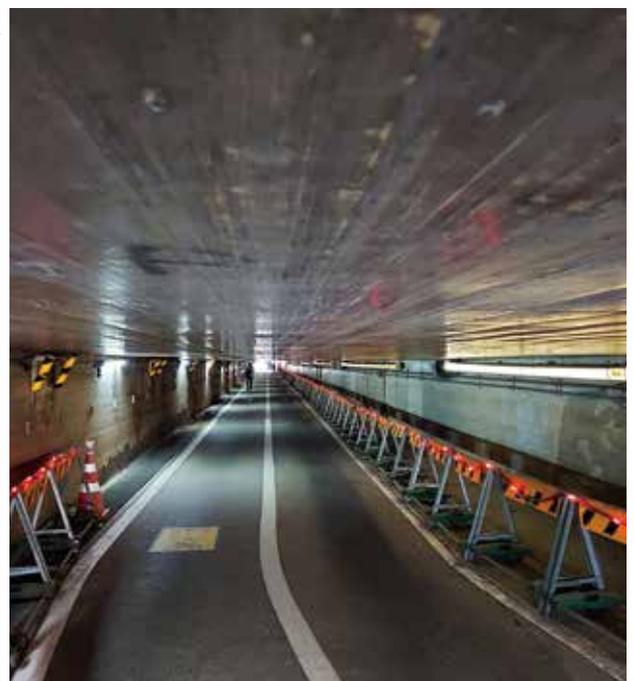
その他の評価コメント

- ▶ 消えゆく景観ではあるが、港区の海側と内陸側のかけ橋となり、多くの方に感動を与えている。

応募者からの推薦コメント

提灯殺しのトンネルとして有名ですが、歴史もあり、夏は涼しく。残しておきたい景観です。

応募者：丸山 孝典 (区内在住)



いろは通りの芝の家と芝のはらっぱ

テーマ：お気に入りの通り、おすすめの街かどの景観



選定にあたっての評価コメント

「いろは通り」が賑やかな商店街だった頃のマップを掲げる「芝の家」が数年前に三軒隣に移った跡に「芝のはらっぱ」が出現。小さな芝生広場には皆で作ったパーゴラやプランター、いつでも座れる木製ベンチ。いろは通りの風景はあたたかい。

その他の評価コメント

- ▶まちかどの広場がコミュニティの拠点として運営されている。
- ▶一息つける場所づくりに取り組むまち

応募者からの推薦コメント

昔は魚屋さん、薬屋さん等いろいろな商店があった。今は八百屋さんだけになってしまったが、芝の家、芝のはらっぱがある楽しい通りです。

応募者：匿名

東京ミッドタウンの桜並木

テーマ：お気に入りの通り、おすすめの街かどの景観



選定にあたっての評価コメント

桜の花が雲のように浮かんで見える俯瞰景観の桜並木は、そう多くはない。ここは美しく、楽しめる心地よい風景である。この土地の歴史を受け継いだ桜、立体的な街づくりの中でも、その特別感のある効果的な並木の見せ方の良い例である。

その他の評価コメント

- ▶曲線の街路、俯瞰視点など楽しみ方に多様性がある。
- ▶計画者の思い通りに名所になったようだ。

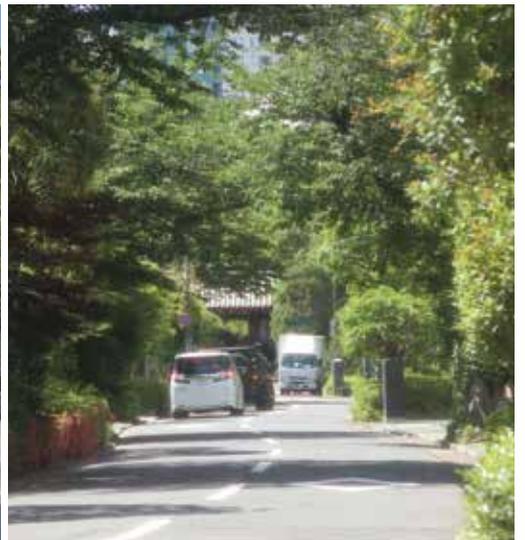
応募者からの推薦コメント

都心で素晴らしい桜並木です。

応募者：依田 修一（区内在住）

東禅寺に向かう道

テーマ：お気に入りの通り、おすすめの街かどの景観



選定にあたっての評価コメント

第一京浜から東禅寺に向かう参道は緑豊かに蛇行し、歩が進む。激しく往来する車の喧騒も不思議なほど和らぐ。かつて目の前に江戸湾が広がっていた此処の地形と歴史に想いを馳せられるのは伝え続けてくれたお陰である。

その他の評価コメント

- ▶大門の景観とは対照的な静かな門前景観
- ▶高輪地区の地域性がある。

応募者からの推薦コメント

道路が僅かに蛇行かつ傾斜しており、私の気に入っている通り。両側の緑が豊富で心を和ませてくれる。

応募者：内田 道治 (区内在住)

芝浦のクロスロード (ペDESTリアンデッキから)

テーマ：お気に入りの通り、おすすめの街かどの景観



選定にあたっての評価コメント

芝浜小学校西隣の通りから北方向の眺めである。奥が鉄道敷で新幹線などの電車が往来し、その手前上空をモノレールがカーブしながら横切る。この立体的でダイナミックな交通景観に街路樹や沿道敷地の木立が柔らかさを添えている。

その他の評価コメント

- ▶遊歩道から見える景観が良い。
- ▶地区の特徴的景観をよく表現できている。

応募者からの推薦コメント

電車でモノレールに車に自転車に歩行者と、色々クロスする景観が面白く、見入ってしまいます。

応募者：沖山 恵太郎 (区内在住)

港区立伝統文化交流館(旧協働会館)

テーマ: 歴史・文化を感じる景観



選定にあたっての評価コメント

特異な長い歴史で翻弄された建物が、歴史の証人として、また生きているコメントとして、今も広く親しまれている。超高層タワーマンションが立ち並ぶこの一角は、新しいものと古いもの、両方を大切にしている区民の思いを体現している景観である。

その他の評価コメント

- ▶ 生きている歴史的景観
- ▶ 土地の歴史を伝える、大切にしたい文化遺産

応募者からの推薦コメント

昭和11年に芝浦花柳界の見番として建てられた「協働会館」が、地域コミュニティの施設として有効活用されたのが素晴らしい。最近できたタワーマンションを背景に入れて新旧を対比しました。

応募者: 寺田 順彦 (区内在住)

五色橋周辺から見た運河とモノレール

テーマ: 水辺の景観



選定にあたっての評価コメント

東京のウォーターフロント、港区。モノレールと屋形船という新旧の交通要素が立体的に絡む港区ならではの景観。五色橋周辺は、東京湾への水門に向かい運河が一番広がりを見せるところで、遠近感もありダイナミック。水辺の都市空間がさらに重要視される波及性も期待する。

その他の評価コメント

- ▶ 運河が集約する水上交差点
- ▶ 芝浦界隈の運河は波も穏やか。水辺を楽しむ視点が多数整備されている。

応募者からの推薦コメント

五色橋を夕陽が照らす時間帯になると、宴に向かう屋形船と、旅先から家路に向かうモノレールが交錯します。顔は見えなくても、たくさんの笑顔を想像できる一場面です。

応募者: 岩本 修一 (区内在勤)

水面に反射する夕暮れ時の空模様。なんでもない日常の中にさえ、思わずハッとさせられるほどに美しい景色があることを教えてくれるような1枚で、とてもお気に入りです。

応募者: 圓尾 瞳 (区内在住)

審査会委員総評

もっと高輪・麻布・赤坂地区の景観を

セレクションも回を重ねるにつれ、選定されたビューポイントの分布の偏りが見え始めました。この6回までに選定された57地点をみると、高輪・麻布・赤坂地区がやや少ないのです。累計がおおよそ100となった時点での構想を区は温めているようですから、それまで3地区の景観をもっと応募いただきたいのです。ただ、セレクションの趣旨は景観そのものの魅力を、そこに出かけて分かち合うことにあります。写真コンテストではないことにご留意くださいますように。

齋藤 潮

港区景観審議会 会長
東京工業大学
環境・社会理工学院 教授

杉山 朗子

港区景観審議会 副会長
株式会社日本カラー
デザイン研究所
研究フェロー

地形と時代ごとの魅力が溢れる街角を大切に

港区は海に面して坂の多い東京の特徴を凝縮した地域である。歴史の重みがある一方、都市開発の最先端地区もある。ビジネスの中心であるとともに穏やかな住宅街も広がる。まちを歩くたびにその多様性に出会い、また来たいと思わせてくれる。今回も地形、歴史、時代ごとの暮らしの姿など再発見させてくれる候補が並び、絞り込むのが大変だった。さらに港区の魅力を探って共有・継承していきたいと改めて思う。

区民に愛される、港区の多様な魅力を再認識

多数の応募作品を拝見し、改めて港区の多様な魅力と、区民の皆様のわが街に対する愛情を感じました。石垣と緑陰が続く坂道の重厚で品格のある景観から、都会の真ん中の白砂青松、新旧の交通網が交差するダイナミックな運河など、多様な魅力にあふれています。さらに、歴史をきざむ建造物やモニュメントに対する区民の情熱は、港区ならではの、新旧コントラストのある印象的な景観を形成しています。選定にかかわることで、自らの港区への愛情も強まりました。

栗山 由美

港区景観審議会
区民委員

大橋 尚美

港区景観アドバイザー
株式会社戸田芳樹風景計画
顧問

まちの魅力発見を新たなライフスタイルに！

ふと気づいたら素敵な風景が…多くの発見を語る多彩な作品群を見ました。今、身近な場所で自然に触れあえる場所が希求されています。区内には心地良く、美しい自然も多く、その風景探しは、新たなライフスタイルとなっていると感じます。大開発が進む港区の先進性の風景、その横で持続する歴史的空間など、過去と未来が融合しながら展開するまちの姿にも逞しさを感じます。これからも、より多くのまちの魅力発見に期待します。

わがまち自慢の愛着ある風景とは…

回を重ねるにつれて応募件数が増え、区民景観セレクションが定着してきたことが嬉しく、そのタイトルには応募された方の思いやこだわりが詰まっていて、自分が暮らすまちへの愛着が読み取れました。コロナ禍やSDGsで社会環境も生活環境も考え直す時ですが、港区は超高層ビル林立となる大規模改変が続いています。わがまちのここが素敵！という自慢の風景が消えゆくことはそろそろおしまいになってほしい、と見つめ直す機会となりました。

藤野 珠枝

港区景観アドバイザー
藤野アトリエ一級建築士
事務所 主宰

過去に選定された受賞景観はこちら▷

二次元コードをスマートフォンで読み取ると、港区ホームページの「区民景観セレクション」のページをご覧ください。





みどりの街づくり賞

港区環境リサイクル支援部 環境課
港区芝公園 1-5-25 TEL: 03-3578-2330

景観街づくり賞・区民景観セレクション

港区街づくり支援部 都市計画課
港区芝公園 1-5-25 TEL: 03-3578-2244



FSC®森林認証取得用紙
植物油インク使用

令和5年(2023年)3月発行
発行番号2022199-5011